

科目番号	52005	分類	基礎助産学	履修者	高度実践助産コース	学年	1	
科目名	家族社会学特論 (Advanced Family Sociology)					1		
						配当セスター 後期		
担当者	○松島 紀子	区分	助産師免許取得プログラム	選択	単位	1	時間数	15
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連		
【概要】 家族の様々な諸相を理解するために、家族社会学についての基礎的な概念や内容を学ぶ。そして、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題に言及する。そのうえでリプロダクティブヘルス・ライツに影響を及ぼす現代社会の課題やジェンダーに関連し、ジェンダー格差が健康にもたらす影響について学び、家族社会学の視点から人々をエンパワーメントする方策を検討する。DVは周産期に増加する傾向にあるため、DV緊急対応ができるようにする。						○	1. 自律して自然分娩の支援ができる能力	
							2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力	
						○	3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力	
							4. 周産期の救急時に対応できる能力	
【目標】 1. ジェンダーの視点を学ぶことで家族社会学におけるジェンダー分析が理解できるようにする。 2. 現在の家族問題とその対応について学ぶ。 3. リプロダクティブヘルスライツと家族問題について学ぶ。 4. 社会や家族の中で生じる暴力について学び、その対応を学ぶ。						○	5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力	
						○	6. 研究・開発能力	
							7. 倫理的意思決定能力	
授 業 計 画								
回	内 容						担当教員	
1回	家族社会学の概論						松島	
2回	ジェンダーについて							
3・4回	リプロダクティブ・ヘルス・ライツについて ①生殖技術と家族（中絶、不妊）							
5回	②生殖補助技術がもたらした影響（心理、制度）							
6回	社会・家族の中の暴力におけるジェンダー分析							
7回	DV、デートDV、セクシャルハラスメント							
8回	児童虐待、高齢者虐待について 暴力における対策について							
事前・事後学習	事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。 事後学習：配布資料を復習する。また、場合によってはレポートを課す。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。							
評価の方法	レポート100% レポートのフィードバックを行う。							
参考図書・資料等	レポートを書く際に、必ず、事前にレポート、論文の書き方に関する文献を読んでおくこと。 ◎助産学講座4 基礎助産学(4) 母子の心理・社会学；我部山キヨ子 医学書院、2016 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。							
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。							